

ノンインパクトプリンタの動向

水谷 実

プリンタはコンピュータの端末装置として発展してきたが、紙の持つ読みやすさは他に代え難い特性であり、ビジネス用途から個人用途まで広く使用されている。プリンタにはインパクトプリンタとノンインパクトプリンタ(NIP)に大別されるが、現在、カラー化や高精細な印刷が可能な事からノンインパクトプリンタのインクジェットプリンタ、電子写真プリンタが主流となっている。電子写真プリンタはページ単位で印刷処理を行うのでページプリンタと呼ばれる(以降、単にページプリンタとする)。ここでは最近のノンインパクトプリンタの動向と当社の取組みに付いて述べる。

ノンインパクトプリンタの市場動向

インクジェットプリンタは行単位に印刷をするシリアルプリンタが主で印刷処理速度は遅いが、低価格で装置が購入できるため、ホームユースとして広く個人にまで使用されている。ページプリンタは印刷処理速度が速いため主にビジネスユースに広がっている。装置価格はインクジェットプリンタより一般的に高価なため、個人での使用は比較的少数である。

今まさにカラー化が進行中であり、装置価格の安い、ホームユースのインクジェット方式ではモノクロテレビがカラーに変わったように加速的にカラーに進化し、既に店頭でモノクロのインクジェットプリンタは見られなくなった。ビジネスの中でもカラー化が進んでおり、カラーが必要不可欠な生産材の印刷以外にも使用されるようになり、インクジェット方式では処理速度が要求に適合できず、カラーページプリンタの必要性が顕著となりつつある。

図1に世界方式別プリンタ市場予測¹⁾を示す。2001年までは実績を、2002年以降は予測である。MFP(Multi-Function Product/Printer/Peripheral)は多機能(ファクシミリ、複写)を持つプリンタを指す。ページにはモノクロページプリンタとカラーページプリンタを合わせて示す。ワールドワイドの市場動向を見るとカラーインクジェットは2002年度で6,400万台、モノクロページプリンタで1,100万台、カラーページプリンタで70~80万台であるが、2005年にはインクジェット、モノクロページプリンタは横ばいでカラーページプリンタが150万台と約倍増すると予測されている。

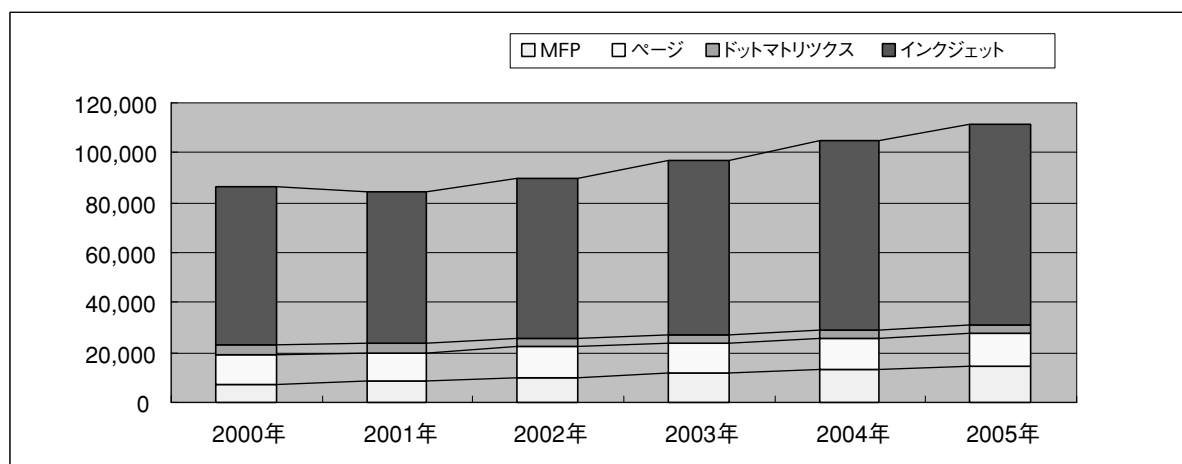


図1 世界方式別プリンタ市場予測

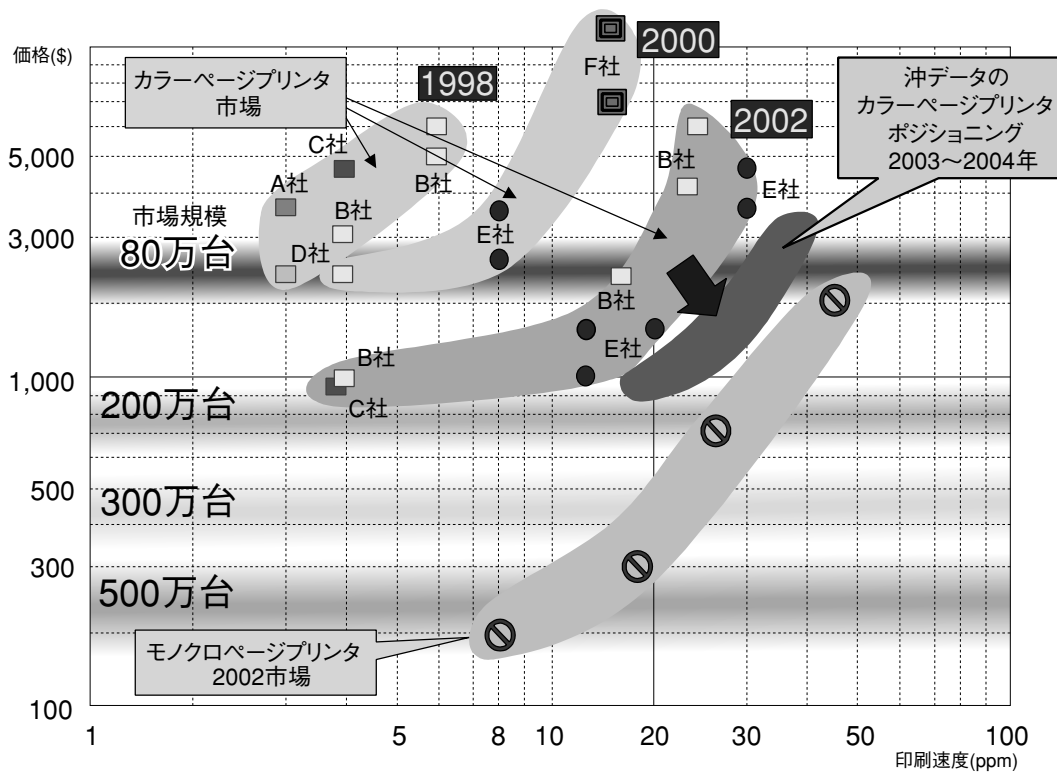


図2 カラーページプリンタの市場動向

沖データのノンインパクトプリンタ

沖データは1980年代よりデジタルLEDヘッドを光源としたノンインパクトモノクロページプリンタをワールドワイドで販売しており、特にデジタルLEDヘッドの良さを活かした小型軽量の高速プリンタは、累計350万台の実績がある。

1995年には世界で初めてデジタルLEDヘッドによるシングルパスカラー^{*1)}方式のカラーページプリンタを出荷した。発売以来、フルカラー印刷の高速性、パフォーマンスの良さ、媒体対応力の柔軟性によって好評を得て販売台数は年々加速的に増加しており、当社ビジネスの主翼となってきている。これに続き昨年には世界最高速のA3機とA4機とを発売し、更に世界最小、最軽量（一人で持ち運びができ、購入者が自分でセッティング可能）のカラーページプリンタも発売した。

図2は世界で出荷されたカラーページプリンタとモノクロページプリンタの印刷速度と価格を領域で示す。2002年度に出荷された沖データのカラーページプリンタはモノクロプリンタ領域にかなり接近してきている。

*1) シングルパスカラーは株式会社沖データの登録商標です。

ビジネスユースでは予測以上にモノクロページプリンタの需要が継続しており、まだカラー化の必然性に到達していないが、カラーページプリンタは必要不可欠なドキュメントの印刷用途、たとえば、プレゼンテーション資料、顧客別保険の条件提案書、POP（店頭広告）、カンパ（印刷前の校正確認）等に使用されている。今後、装置価格、消耗品価格の割高感が無くなるに従い、加速的にカラーページプリンタに移行していくと予測される。

したがって、当社は今後もカラーページプリンタに注力し、低価格化、高速化、高印刷品質化、小型化、多様媒体対応化を果敢に進めていく。 ◆◆

参考文献

1) 社団法人 電子情報技術産業協会（JEITA）：プリンタに関する調査報告書、「第I部 プリンタ市場動向調査」、pp.17-29、2002年3月

● 筆者紹介

水谷実：Minoru Mizutani .株式会社沖データ NIP事業本部長